

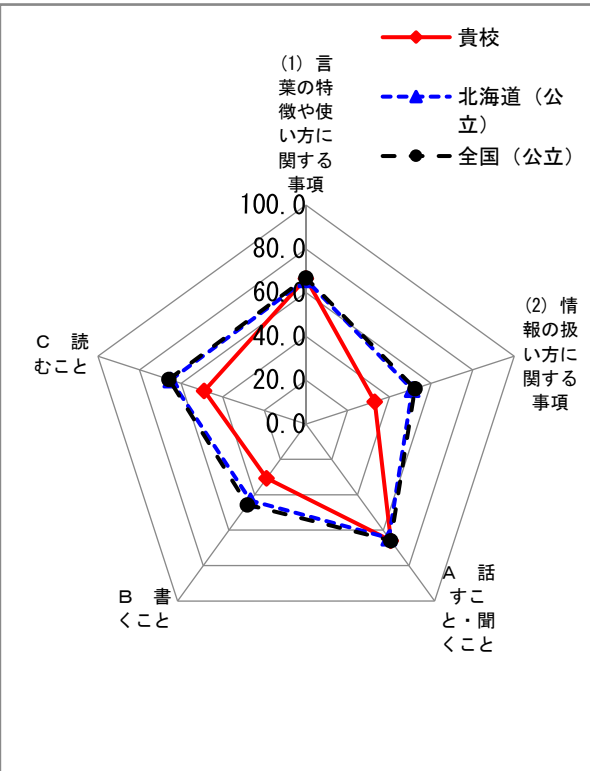
令和8年度 深川市立一已小学校 学校改善プラン

1. 全国学力・学習状況調査について

(1) 教科に関する調査結果（平均正答率）

		令和8年度	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度
国語	一已小学校	53	65	62	71	64
	北海道（公立）	60	65	67	66	64
	全国（公立）	60.9	66.8	67.7	67.2	65.6
算数	一已小学校	53	52	54	70	59
	北海道（公立）	54	55	61	61	61
	全国（公立）	56.4	58.0	63.4	62.5	63.2
理科	一已小学校		55			61
	北海道（公立）		56			63
	全国（公立）		57.1			63.3

【国語】



- (1) 言葉の特徴や使い方に
関する事項
(2) 情報の扱い方に
関する事項
A 話すこと・聞くこと
B 書くこと
C 読むこと

〔国語分析〕

成果

「知識及び技能」の正答率は 66.5% であり、全道（65.9%）や全国（66.8%）と同等以上の水準となっている。特に漢字の書き直し（「みじかい」が 84.1%、「ふしぎ」が 72.7%）において、全道や全国の平均を大きく上回る高い正答率を示している。構成メモの工夫を問う問題（1一）でも 86.4% と高い正答率で、領域別では「話すこと・聞くこと」が 65.9% と良好である。

課題

「情報の取扱いに関する事項」の正答率が 33.0%（全道：51.0%、全国：52.3%）と大きく下回っている。

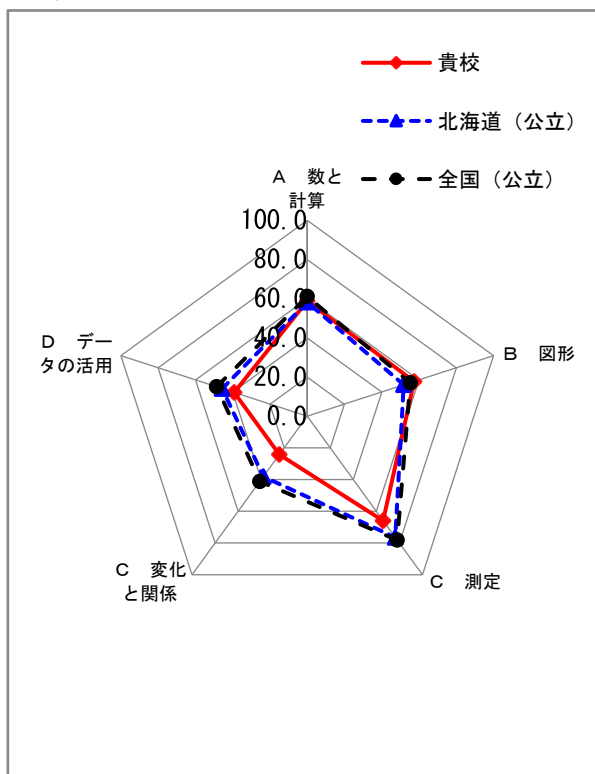
領域別では「書くこと」（30.7%）と「読むこと」（48.9%）に課題が見られている。

記述式問題の正答率は 34.1% と低く、特に「自分の経験と結び付けて考えを書く問題（3三(2)）」では無解答率が 34.1% に達している。

今後の取り組み

高い正答率を示す「漢字力」や「構成メモの理解」という本校の強みを活かし、課題である記述式の無解答率（特に自己の経験を交える問題で 34.1%）を減らすため、日常的な「思考のテンプレート（記述フレーム）」の導入や、メモから文章化するプロセスのスムーズステップでの指導が求められる。

【算数】



A 数と計算 B 図形
C 測定、変化と関係 D データの活用

〔算数分析〕

成果

「知識・技能」の正答率は 59.3% であり、全道 (57.4%) を上回っている。領域別では「図形」が 57.4% と、全道 (51.8%) や全国 (55.3%) を上回っている。個別問題では、立方体の体積を求める式 (75.0%)、面の構成 (79.5%)、カードを用いた最大数作成 (97.7%) など高い正答率となっている。異分母分数の大小判断と理由記述 (3 (3)) の正答率も 54.5% と良好である。

課題

「思考・判断・表現」の正答率が 35.2% と、全道 (42.5%) や全国 (45.4%) に比べて低くなっている。領域別では「変化と関係」(24.2%) や「データの活用」(39.2%) に大きな課題が見られている。特に、二次元の表から条件に合う人数を読み取る問題 (4 (3)) が 11.4%、テープの 1.5 倍の図を選択する問題 (2 (4)) が 13.6% と、正答率が極めて低い。

今後の取り組み

正答率が極めて低い「割合と図の連動 (13.6%)」や「二次元の表の読み取り (11.4%)」という具体的な課題に対応するため、単なる公式暗記にとどまらない「テープ図や数直線」を用いた視覚的・体感的な割合指導や「色分け・指差し (マーキング)」による複合データを整理する活動を取り入れていくことが必要である。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査結果（小学校6年生）

	質 問 項 目	令和8年度		令和7年度		令和6年度		令和5年度	
		学校	国	学校	国	学校	国	学校	国
学 力 の 向 上	国語の勉強は好きだ	72.9	57.4	81.3	58.3	58.9	62.0	85.7	61.5
	国語の授業の内容はよく分かる	85.4	81.5	95.8	82.8	82.1	86.3	98.0	85.7
	算数の勉強は好きだ	41.7	57.6	45.9	57.9	69.6	61.0	71.5	61.4
	算数の授業の内容はよく分かる	81.2	77.5	79.2	78.3	83.9	82.1	97.9	81.2
	理科の勉強は好きだ	アンケート調査		91.7	80.1	91.1	83.6		
	英語の勉強は好きだ	68.7	66.7			67.8	69.3	95.9	69.3
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができている	83.3	85.7	87.5	84.9	87.5	86.3	93.9	81.8
学 習 態 度 の 確 立	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	75.0	82.8	85.4	81.9	76.8	82.9	89.8	81.0
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	83.3	90.7	89.6	91.0	89.3	91.6	91.9	90.5
	将来の夢や目標を持っている	83.3	81.8	70.9	83.1	83.9	82.4	85.7	81.5
	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている	66.7	79.4	81.3	81.7	83.9	80.7		
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。※1時間以上	29.2	49.9	33.4	54.0	37.6	54.6	46.9	57.1
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか ※30分以上	33.4	34.6	47.9	42.5	48.3	44.2	47.0	41.1
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。※30分以上	23.0	26.1	31.3	31.1			38.8	37.3
社 会 の 変 化	5年生までに受けた授業で、PCなどのICT機器をどの程度使用しましたか。※週1回以上	83.3	87.9	96.0	89.7	94.6	85.5	97.9	86.3
	自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章（文字、コメント等）を作成することができますか	79.1	79.1	68.8	81.8				
	自分がインターネットを使って情報を収集する（検索、調べるなど）ことができますか	89.6	84.9	91.7	89.8				
	自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフなどでまとめる）ことができますか	68.7	69.5	68.8	69.3				
	自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（スライド）を作成することができますか	81.2	74.6	72.9	76.7				
	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォン等でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除きます）※2時間以上	70.8	57.6			42.8	33.8		
心 の 教 育	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	66.6	80.1	83.3	81.3	87.5	83.5	85.7	76.8
	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	70.8	86.9	91.7	88.0	87.5	88.2	91.8	83.6
	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	64.6	81.5	93.7	83.3	80.3	84.2	93.9	77.2
生 徒 指 導	自分には、よいところがあると思う	79.2	85.6	77.1	86.9	83.9	84.1	87.7	83.5
	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	97.9	96.2	95.9	97.2	98.2	96.7	100	96.9
	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	68.7	70.6	70.8	70.6	71.4	67.1	65.3	68.5
	学校に行くのは楽しいと思う	73.0	85.7	79.2	86.5	76.8	84.8	98.0	85.3

※当てはまる＋どちらかと言えば当てはまる ※左側：一己小学校・右側：国

〔分析〕

成果

国語に対する圧倒的な学習意欲

国語の勉強が「好きだ」と回答した児童は 72.9%（全国：57.4%）と全国を大幅に上回っており、「授業の内容がよく分かる」も 85.4%（全国：81.5%）と良好。また、算数においても授業の内容が「よく分かる」と答えた児童は 81.2%（全国：77.5%）と高く、基礎的な授業理解度は全国水準を超えている。

ICT 機器を使いこなす表現スキルと自信

「インターネットを使った情報収集」に自信を持つ児童は 89.6%（全国：84.9%）、「学校でのプレゼンテーション（スライド）作成」ができると回答した児童は 81.2%（全国：74.6%）に達しており、ICT を表現活動に主体的に活かせる土壌が十分に育っている。

高い規範意識と明確な将来ビジョン

「いじめはどんな理由があってもいけない」と答えた児童は 97.9%（全国：96.2%）と極めて高いモラルが維持されている。さらに、「将来の夢や目標を持っている」児童は 83.3%（全国：81.8%）に上り、前年度（令和 7 年度：70.9%）から大幅な改善を見せている。

課題

「スマホの長時間利用」と「家庭学習時間の深刻な不足」の強い相関

普段の平日に家庭学習を「1 時間以上」する児童はわずか 29.2%（全国：49.9%）に留まっている。一方で、スマートフォンやタブレットでの「SNS や動画視聴が 2 時間以上」に達している児童は 70.8%（全国：57.6%）と異常に高く、一昨年度（42.8%）から急増している。メディアの長時間接触が家庭での学習時間を大幅に侵食している現状が強く伺える。

算数に対する強い「苦手意識（学習嫌い）」

算数の授業は「よく分かる（81.2%）」と感じているのに対し、算数の勉強が「好きだ」と答えた児童はわずか 41.7%（全国：57.6%）となっている。理解は追いついているものの、学ぶ楽しさや意欲を引き出せていないギャップがある。

自律学習への主体性と基本的生活習慣の乱れ

「分からない時に自分で学び方を考えて工夫する」児童は 66.7%（全国：79.4%）と、探究する姿勢に課題が見られる。また、「同じ時刻に寝ている（75.0% / 全国：82.8%）」、「同じ時刻に起きている（83.3% / 全国：90.7%）」ともに全国平均を下回っており、生活リズムの乱れも学習への集中力に影響していると考えられる。

対話活動や学級の「つながり・楽しさ」の急落

道徳での話し合い活動（70.8% / 全国：86.9%）や学級活動での話し合い・合意形成（64.6% / 全国：81.5%）に対する肯定感が全国から大きく遅れをとっている。これは前年度（道徳：91.7%、学級活動：93.7%）からの急激な落ち込みである。それに伴い、「学校に行くのが楽しい（73.0% / 全国：85.7%）」や、自己肯定感を示す「自分にはよいところがある（79.2% / 全国：85.6%）」も低迷しており、集団の中で認め合い、楽しく主体的に過ごす人間関係構築のサポートが求められる。

2. 教研式標準学力検査（NRT）について

		令和8年度	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度
2年生	国語	42.8				
	算数	44.3				
	教科総合	43.6				
3年生	国語	46.7	43.5			
	算数	47.7	42.9			
	教科総合	47.2	43.2			
4年生	国語	42.2	45.7	42.1		
	算数	39.9	44.5	44.4		
	教科総合	40.8	45.1	43.3		
5年生	国語	44.7	45.2	47.3	51.4	
	算数	42.5	45.1	50.5	51.4	
	教科総合	43.6	45.2	48.9	51.4	
6年生	国語	46.3	45.4	44.4	47.2	47.6
	算数	47.3	41.1	43.4	44.7	46.9
	教科総合	46.8	43.0	43.5	45.8	47.2

〔分析〕

成果

「5段階分布図」から

現6年生（令和8年度）の分布を見ると、段階1（低い）の割合が「6%」となっている。さらに、段階4（やや高い：21%）と段階3（普通：40%）がボリュームゾーンを形成しており、中上位層が全体の61%を占める良好な山型の分布となっている。5年時のつまずきから、学力を底上げした成果が分布図にもはっきりと現れている。

「領域別集計グラフ（全国比）」から

国語「話すこと・聞くこと」に関して、3年生で104、6年生で102と全国平均（100）を突破しており、他学年でも100に近い数値を維持している。口頭でのコミュニケーションや情報整理には全校的な強みがある。

6年算数の「数と計算」（101）については、基盤領域で全国平均を上回っており、教科全体のV字回復を支える強みとなっている。

「観点別集計グラフ」から

3年生については、国語・算数ともに「知識・技能」「思考・判断・表現」の双方が90以上（国語：93/91、算数：93/94）を維持しており、バランスよく学力が伸びている。また、6年生においても「知識・技能」は国語で94、算数で93と非常に高く、基礎はしっかりと身につけている。

課題

「5段階分布図」～学校全体における「下位層（段階1・2）」の滞留～

「学校全体」の総合分布グラフ（次頁）を見ると、段階2（やや低い）が「29%」、段階1（低い）が「18%」を占めている。1・2段階の合計が「47%」と半数を超えている。特に現

4年生（段階1・2の合計が57%）および現5年生（同55%）において、下位層の割合が5割を超えて膨らんでいる点がグラフから見て取れる。

「書く・読む」の低迷と、算数「データの活用」の壊滅的弱さ

国語「書くこと」「読むこと」の全学年的な課題：国語の「書くこと」は4年で68、「読むこと」は6年で78と、全国平均（100）を大きく下回る落ち込みが見られる。

算数「測定・データの活用」の領域は、3年（87）→4年（67）→6年（77）と、多くの学年で全国比80を下回る最大の弱点となっている。表やグラフ、統計的な資料を正しく読み解き、活用する力が学校全体で不足している。4年生の算数では「図形（68）」「測定・データの活用（67）」の領域で全国平均を大きく下回っており、早急な組織的支援が必要である。

「分かっているが、使えない」構造の固定化

ほぼすべての学年・教科において、「思考・判断・表現」の指数が「知識・技能」を下回る傾向にある。特に学力が低下しやすい4～5年生の時期にそのギャップが顕著となっている。

4年算数：知識・技能 76 に対し、思考・判断・表現 59

5年算数：知識・技能 78 に対し、思考・判断・表現 72

「やり方（知識）」としては覚えていても、問題の場面に応じて「どう使うか（思考・判断）」を組み立てる段階で、多くの児童がつまづいている構造がこの指数の違いからも証明される。

I. 今年度の状況

1 年 生				2 年 生				3 年 生				4 年 生				5 年 生				6 年 生				学 校				全 体			
教科	人数	偏差値平均 (M)	標準偏差 (SD)	教科	人数	偏差値平均 (M)	標準偏差 (SD)	教科	人数	偏差値平均 (M)	標準偏差 (SD)	教科	人数	偏差値平均 (M)	標準偏差 (SD)	教科	人数	偏差値平均 (M)	標準偏差 (SD)	教科	人数	偏差値平均 (M)	標準偏差 (SD)	教科	人数	偏差値平均 (M)	標準偏差 (SD)	教科	人数	偏差値平均 (M)	標準偏差 (SD)
国語	39	42.8	14.5	国語	35	46.7	11.7	国語	52	42.2	9.7	国語	40	44.7	9.3	国語	47	46.3	9.3	国語	213	44.4	11.1	国語	213	44.4	11.1	国語	213	44.4	11.1
算数	39	44.3	14.0	算数	35	47.7	11.9	社会	53	39.9	11.2	社会	40	42.5	11.6	算数	47	47.3	9.5	算数	214	44.1	12.0	算数	214	44.1	12.0	算数	214	44.1	12.0
								理科				理科				理科				理科				理科			理科			理科	
教科総合	39	43.6	13.6	教科総合	35	47.2	11.4	教科総合	52	40.8	9.9	教科総合	41	43.6	9.8	教科総合	47	46.8	8.8	教科総合	167	44.2	11.0	教科総合	167	44.2	11.0	教科総合	167	44.2	11.0
知能	39	47.0	11.0	知能	35	51.1	11.6	知能	52	48.8	8.6	知能	41	49.5	8.9	知能	47	49.5	8.9	知能	167	49.5	10.0	知能	167	49.5	10.0	知能	167	49.5	10.0

偏差値の分布

偏差値	1	2	3	4	5
教科総合	0	0	0	0	0
国語	0	0	0	0	0
算数	0	0	0	0	0
社会	0	0	0	0	0
理科	0	0	0	0	0
知能	0	0	0	0	0

II. 領域別集計

[illegible]

III. 觀點別集計

国 語	全 国 立	社 会	全 国 立	算 数	全 国 立	理 科	全 国 立	英 語	全 国 立
1 年									
2 年	81 知識・技能 2 思考・判断・表現	81		1 知識・技能 2 思考・判断・表現	88 74				
3 年	93 知識・技能 2 思考・判断・表現	91		1 知識・技能 2 思考・判断・表現	93 94				
4 年	77 知識・技能 2 思考・判断・表現	72		1 知識・技能 2 思考・判断・表現	76 59				
5 年	85 知識・技能 2 思考・判断・表現	80		1 知識・技能 2 思考・判断・表現	78 72				
6 年	94 知識・技能 2 思考・判断・表現	85		1 知識・技能 2 思考・判断・表現	93 87				

IV. 累積資料

今回と過去3年間に於いて実施された教科と学年について、各学年の教科の偏差値平均が打ち出されます。同一集団の偏差値の推移を見るときには、同じ色のマスを見ることで確認できます。

国語					社会				
学年	2026	2025	2024	2023	学年	2026	2025	2024	2023
1年					1年				
2年	42.8	43.5	42.1	51.4	2年				
3年	46.7	45.7	47.3	47.2	3年				
4年	42.2	45.2	44.4	48.5	4年				
5年	44.7	45.4	50.1	47.6	5年				
6年	46.3	47.6	46.0	52.6	6年				
全体	44.4	45.6	46.0	49.3	全体				

算 数					理 科				
学年	2026	2025	2024	2023	学年	2026	2025	2024	2023
1年					1年				
2年	44.3	42.9	44.4	51.4	2年				
3年	47.7	44.5	50.5	44.7	3年				
4年	39.9	45.1	43.4	46.3	4年				
5年	42.5	41.1	45.6	44.2	5年				
6年	47.3	45.2	43.5	50.7	6年				
全体	44.1	43.8	45.3	47.2	全体				

英語				教科 総合					
年度	2026	2025	2024	2023	年度	2026	2025	2024	2023
1年					1年				
2年					2年	43.6	43.2	43.3	51.4
3年					3年	47.2	45.1	48.9	45.9
4年					4年	40.8	45.2	43.9	47.4
5年					5年	43.6	43.3	47.9	45.9
6年					6年	46.8	46.4	44.7	51.6
全体					全体	44.2	44.7	45.6	48.3

(3) 学校改善プラン（令和8年10月1日～令和9年9月30日）

昨年度の検証

- ・全国学力・学習状況調査において、課題となっていた算数科の図形領域は全国・全道の正答率を上回った。しかし、同調査（児童質問調査）における「主体的・対話的で深い学び」及び「学びの自己調整」に係る多くの設問においては、全国・全道の肯定的な回答率を大きく下回った。引き続き、研修部が中心となって全教職員の共通理解を図り、授業観の転換につなげる必要がある。
- ・不登校児童数は10名となった。要因の多くが、無気力・不安となっている。また、いじめについては積極的に認知した結果、183件となった。その要因は「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が大きな割合を占めた。引き続き、学校の組織的な対応はもちろんのこと、保護者や関係機関との密な連携が求められる。
- ・地域住民や関係機関と連携した教育活動や児童の見守り活動を実施することができた。今後は、学校運営協議会を核とした各種活動を展開し、より一層地域が一体となった活動の推進が肝要である。

領域	目標	改善策
学習指導	基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、それらを活用する思考力・判断力・表現力を高める教科指導と、探究活動の質的充実及び言語活動を重視した授業改善を推進する。	① 各教科で「身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能」を明確化し、学年・教科間で共有する。 ② 探究活動について、「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現→振り返り」という学習過程を意識した指導を学校全体で共有する。 ③ 授業研究や相互参観を通して、思考を深める発問、対話のさせ方、振り返りの方法などについて教員間で実践を共有する。タブレット端末等のICT機器の効果的な活用を図る。 ④ クラウドを活用した予習・復習の取組を進める。
特別活動	よりよい学校生活を築く自主的・実践的な態度を育てる。	① 児童会活動や学校行事など全校児童が触れ合う学校行事や集会活動を工夫し、所属感や連帯感を醸成する。 ② 「課題発見→話し合い→実践→振り返り→改善」というサイクルを繰り返すことにより、自ら学校生活をよりよくしていこうとする態度を育成する。 ③ 地域社会との交流などの体験的な活動を通して、豊かな心を育む教育活動の推進に努める。
道徳	自ら考え判断し、自立して協働する生き方を考える力を育成する。	① 自分の考えをもち、多面的・多角的に考える教育活動（授業）を展開する。 ② 道徳科の授業において、対話を通して、自分の考えを深める活動を充実させる。
総合的な学習の時間	・自ら課題を見付け、学び、考え、よりよく解決する力を育てる。 ・学び方を身に付け、協働して探究し、自己の生き方を考えられる力を育てる。	① 自然体験や社会体験など体験的な学習場面や問題解決的な学習を積極的に取り入れる。 ② 情報収集・整理・分析・発信の学び方を身に付け、協働的な探究を充実させる。
生徒指導	児童理解のもと全教職員が一体となって児童一人一人の心を育み、自立を支援する。	① 日常的な教育相談やHyper-QU等を活用し、情報交流を深めるとともに、児童一人一人のもつ悩みや不安に適切に対応する生徒指導の充実を図る。 ② 授業において、児童が自分の思いや考えを表現し、自分で選択・決定する場面を意図的に設定する。 ③ いじめの未然防止や早期発見に努める。また、事態への対応については、家庭や地域関係機関と連携し、迅速に進める。

健康・安全	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育成する。	① 運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を高め、生涯にわたって運動を豊かに実践していくための資質や能力を育てる。 ② 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける指導を充実させる。 ③ 自らの健康を管理し、改善していくための資質や能力の基礎を培い、実践力を育てる。
特別支援教育	特別支援教育コーディネーターを中心に研修を深め児童理解と校内支援体制の整備・充実を図る。	① 校内委員会により校内体制を整備し、特別支援教育を推進する。 ② 個別の指導計画・支援計画を作成し、個に応じた指導を充実させる。 ③ 特別支援教育コーディネーターが核となり、担任と支援員との情報共有や連携を促進し、支援員の専門性や経験を生かしながら、より効果的な支援につなげていく。
校内研修	教職員一人一人が主体的に学び合い、授業改善に直結する校内研修の質的向上を図る。	① 教職員自身が研修課題を設定したり、実践を持ち寄ったりすることで、主体的に学ぶ研修を推進する。 ② 研修成果を日常の授業改善につなげるために、校内研修で得た学びを実際の授業で実践し、その成果や課題を共有する。
進路指導	将来への目標をもたせ、主体的に進路を選択する意識・能力の育成に努める。	① 学びと活動の様子を記録したキャリアパスポートを計画的に活用し、将来に向けたキャリア形成に活かす。 ② 児童一人一人の能力や特性についての理解を深めるとともに、家庭との連携を十分に図り、組織的な支援・指導に努める。
保護者・地域との連携・その他	学校を積極的にひらき地域・保護者の信頼に応え地域とともに歩む学校経営を推進する。	① 学年・学級を基盤としたPTA活動を通じて、信頼を築く。 ② 学校運営協議会やPTA役員との連携を密にし、学校・家庭・地域の教育力の向上に努める。

具体的数値目標

- ◇全国学力・学習状況調査において、全国平均正答率程度とする。
- ◇全国学力・学習状況調査において、正答率の少ない層を25%以下とする。
- ◇児童質問調査において、家庭学習時間を全国平均程度、「学校に行くのは楽しい」「自分にはよいところがある」の肯定的回答率90%以上とする。
- ◇標準学力検査において、国語科、算数科の標準偏差値を50以上とする。
- ◇標準学力検査において、5段階分布の1・2段階児童の割合を30%以下とする。
- ◇学校評価の児童アンケート・保護者アンケートにおいて、学習や授業に関わる設問の肯定的回答率を85%以上とする。
- ◇不登校児童数を0及びいじめ見逃しを0にする。
- ◇全国体力・運動能力、運動習慣等調査で全国平均以上にする。